

インフラ整備計画をはじめとする 基本方針の具体化について

内閣官房
国際博覧会推進本部事務局

1. 大阪・関西万博の概要

(1) テーマ・コンセプト

テーマ : いのち輝く未来社会のデザイン
コンセプト : 未来社会の実験場



(2) 開催場所 : 夢洲 (大阪市臨海部)

(3) 開催期間 :
2025年4月13日 ~ 10月13日 (184日間)

(4) 来場者数 : 約2,800万人

(5) 経済波及効果 : 2.0兆円
(建設費約0.4兆円 運営費約0.5兆円 消費支出約1.1兆円)

【会場鳥瞰図】



現状の課題

昨年12月に基本方針を閣議決定。
基本方針の具体化に向けた取組を加速することが必要。

● 周辺インフラの整備

✓ 周辺インフラの整備に向けインフラ整備計画を策定

● 各国への参加招請活動の加速

✓ 150か国、25国際機関 (目標値) の達成に向けた対応

● 「未来社会の実験場」の具体化に向けた検討

✓ 様々なアイデアを実現するための規制改革等の推進

● 全国的な機運醸成

✓ 日本全国での機運醸成を進め、企業等の積極的な参画を促進。

【現状のデザイン案】



2. 周辺インフラの整備

～大阪・関西万博に関連するインフラ整備計画の策定～

【インフラ整備計画策定の意義】

- 大阪・関西からの要望（7月2日に受領）を受けて、インフラ整備計画を策定
- 国直轄や補助事業等、国庫支出対象の事業についてインフラ整備計画に位置付け
- インフラ整備計画は関係省庁で合意し、各種インフラ整備の実施を支援



【インフラ整備計画の対象】

- 会場周辺のインフラ整備、会場へのアクセス向上
- 来場者に大阪・関西を観光してもらえるような、おもてなしのためのインフラ整備
- 万博開催後の成長基盤となる、関西全体の往来に資する広域的な交通インフラの整備

など

3. 各国への参加招請活動の加速

目標：150か国、25国際機関（愛知博は、121か国、4国際機関が参加）

現状：54か国、5国際機関（2021年8月27日時点）

【参加表明済の主要国（G20）】

アメリカ、インド、インドネシア、英国、韓国、中国、ドイツ、ブラジル、フランス、メキシコ、ロシア、EU

【現状の課題】

- ドバイ万博の開催が1年延期されたことにより各国の準備が遅延。
- コロナ禍で、各国もその対応に追われ、また対面での働きかけもできないなど、参加招請活動に制約。
- 会場が埋立地（離島）であり、会場建設に多くの時間が必要。

⇒各国の参加表明は着実に進展しているが、上記制約を踏まえ、参加招請活動を更に推進することが必要。

《今後の対応》

- ① ドバイ万博も含め、バイ会談、国際会議等の機会を活用し、首脳・閣僚レベルでの積極的な働きかけを実施。
- ② 在外公館を含む事務レベルでも積極的な働きかけを継続・強化。

4. 「未来社会の実験場」の具体化に向けた検討

【日本の最新技術や、新しい価値観、新しい社会を世界に示す絶好の機会と捉え、取組を推進】

1. カーボンニュートラル

- 2050年のカーボンニュートラルに向け、日本の最新技術を世界に示す。
- 2030年度に、温室効果ガスを2013年度から46パーセント削減。

2. デジタル

- デジタルの活用により、多様な幸せを実現できる社会を示す。
- Beyond 5 Gを実装し、2030年代の最新技術を世界にアピール。

3. モビリティ

- 空飛ぶクルマや自動走行ロボットなどを実際に動かし、世界に日本の技術力を示す。
- 空飛ぶクルマや自動走行ロボットなどの社会実装に向け、規制緩和を推進。

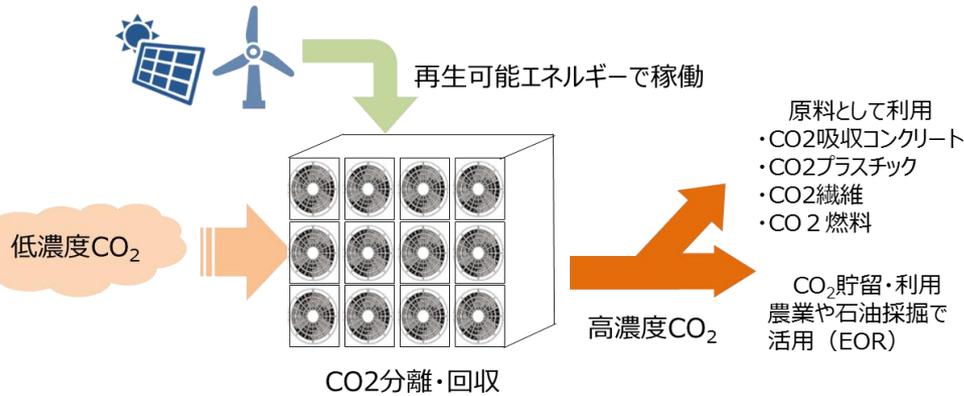


- 予算の確保、新たな制度設計、規制改革など、必要な措置を実施。
- 政府一丸となって推進していくため、アクションプランを年内に取りまとめ。

【参考】2050年カーボン・ニュートラルを実現する技術の実証

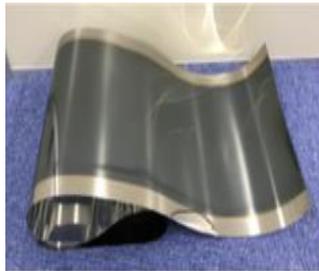
- 大阪・関西万博に合わせて、CO2を回収する技術の実証、水素やアンモニアの発電技術の実証、次世代型太陽電池やCO2吸収型コンクリートのデモンストレーション等を行い、カーボン・ニュートラルの実現に向けた日本の技術を世界にPRしていく。※一部実証等にグリーンイノベーション基金を活用することも検討。

CO2の分離・回収技術の実証



関連予算：令和元年度補正予算200億円の内数（ムーンショット型研究開発基金）

次世代型太陽電池のデモンストレーション



関連予算：令和3年度当初予算額33億円の内数

水素やアンモニアの発電技術の実証



関連予算：令和3年度当初予算額47.5億円の内数（水素発電）
令和3年度当初予算額161.5億円の内数（アンモニア混焼）

CO2吸収型コンクリートの実証



インターロッキングブロック



関連予算：令和3年度当初予算額161.5億円の内数

【参考】デジタル活用を進める情報通信技術に関する取組

多言語同時通訳

- 総務省は、2025年にはAIによる「同時通訳」を実現し、その社会実装を目指すため、令和2年3月に「グローバルコミュニケーション計画2025」を策定。
- NICTの多言語翻訳技術を更に発展させ、AIによる同時通訳等を実現するための研究開発を実施中。(R2年度～R6年度)



ビジネス・国際会議での議論に利用でき、オンライン会議や字幕通訳にも対応した実用レベルの**同時通訳**

2025年大阪・関西万博での利活用イメージ



スマートグラス
(眼鏡型ウェアラブル端末) の事例



同時通訳システムによる
パビリオン来場者へのプレゼンテーション

様々なデバイス



を利用した同時通訳の活用

Beyond 5G

ショーケースの例



カーボンニュートラル



デジタル



モビリティ

ショーケースを実現する
情報通信基盤の例

サイバー・フィジカル・システム
(仮想空間と実世界の時空間同期による新たな価値の創出)

環境にやさしいネットワーク
(オール光ネットワークによる超低消費電力)

エッジコンピューティング
(5Gの1/10程度の超低遅延)

5G・Beyond 5G

5Gによる「高速・大容量」、「低遅延」及び「多数同時接続」の高度化に加え、新機能を追加し、万博会場に2030年代の先端技術を実装して世界にアピール。

(出典) : 大阪・関西万博関係府省庁連絡会議 (第2回) 資料を基に作成

【参考】新しい移動体験の提供

- **空飛ぶクルマによる移動体験**を提供すると共に、会場輸送に貢献、万博を契機に空飛ぶクルマを活用した新たなサービスを実現。
- “空の移動革命に向けた官民協議会”のユースケース検討会にて大阪・関西万博での空飛ぶクルマの活用構想について具体的な議論を実施。

①空飛ぶクルマを活用した運航サービスの展開

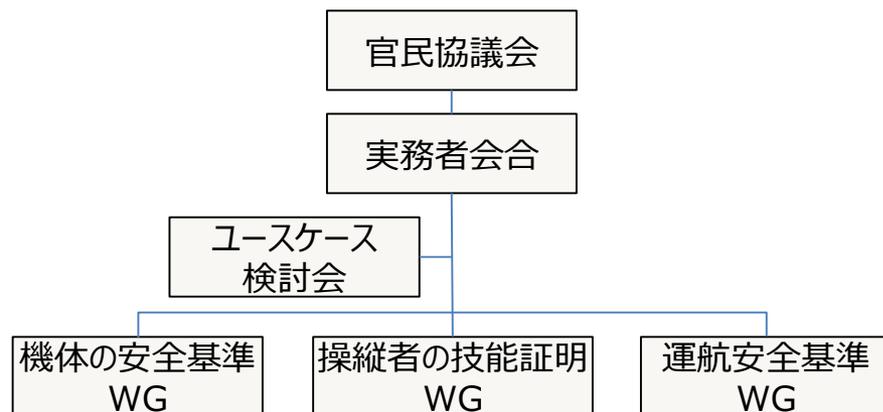
〈例：特定のルートを特定の時刻に運航する定期便型サービス〉

- 空飛ぶクルマを活用した万博会場内での移動体験や、空港などの交通拠点のポートから万博会場への新たな移動を実現。
- 海上や河川等のルートを中心とした2～5人程度の少人数輸送により、快適・安全な空の移動体験を提供する。
- 空飛ぶクルマを安全に飛行させるために、機体の位置情報をモニタリングするサービスや、安全に複数の機体を離着陸できる場所、機体の充電を行うための設備の提供も見込まれる。



②大阪・関西万博に向けた空飛ぶクルマの課題検討

- 官民協議会のもとに、ユースケース検討会を設置。2020年度を通して、万博における空飛ぶクルマの活用構想を聴取し、ユースケース実現に向けた具体的な課題について官民で整理を実施。
- 機体の安全基準、操縦者の技能証明、運航安全基準の3つのワーキンググループを設置。ポートの整備や運航ルールの設定等の具体的な論点について官民で議論を行ってきたところ、引き続き、万博における空飛ぶクルマの活用に向けた必要な課題への対応につなげていく。



【参考】自動配送ロボットのサービス提供

- 自動配送ロボットによる万博会場内におけるデリバリー等により、会場の利便性向上に加え、日常生活でのロボットの活躍をPR。
- 多機能化により、配送だけでなく清掃や警備など様々な用途に活用できる可能性。



ZMP (日)



パナソニック (日)

関連事業予算

- ・自動走行ロボットを活用した新たな配送サービス実現に向けた技術開発事業 :3.0億円 (令和2年度補正)
- ・革新的ロボット研究開発等基盤構築事業 :6.6億円の内数 (令和3年度)

<配送以外の用途の例>

- ◆ 案内・サインエージ・・・来場者への対応 等
- ◆ 警備・・・会場内で巡回 等
- ◆ 荷物運搬の補助・・・歩行者に追従し、荷物を運搬 等